

Lightning Experience
インストールガイド

2025 年 11 月 28 日

第 6 版

株式会社 Fleekdrive

目次

1 はじめに 4
2 インストール 5
2.1 AppExchange サイトを開く 5
2.2 AppExchange の Fleekdrive の製品ページを開く 6
2.3 パッケージのインストールの前準備 6
2.3.1 本番環境へのインストール 6
2.3.2 Sandbox へのインストール 10
2.4 パッケージのインストール (本番環境・Sandbox 環境共通) 12
3 使用前の準備 16
3.1 ユーザ情報のレイアウトの設定 16
3.2 Fleekdrive ファイル連携一覧用のレイアウト割り当て変更 19
3.3 翻訳設定 20
4 設定 23
4.1 Fleekdrive 用システム管理者設定 23
4.1.1 セットアップ方法の選択 23
4.1.2 トライアル実施者の情報を入力 24
4.1.3 セキュリティトークンを使用した再セットアップ 26
5 Fleekdrive 使用前に必要なその他設定について 26
5.1 ユーザの Fleekdrive 設定の編集 26
5.2 信頼済ドメイン URL の編集 32
5.3 Chatter 連携機能を使用する場合 34
5.3.1 Chatter グループ設定 34
5.3.2 Fleekdrive で Chatter 連携の設定 34
5.4 Salesforce コミュニティユーザが Fleekdrive メニューを使用する場合 35
5.4.1 デジタルエクスペリエンス（コミュニティ）の有効化 35
5.4.2 Fleekdrive のタブ表示設定 35
5.5 パッケージインストール後に有効化したシステム権限について 38
5.5.1 インストール後に有効化したプロファイルの場合 38
5.6 インストール後に手動設定が必要なプロファイルについて 42
5.6.1 プロファイル毎の手動設定 42
6 アンインストール 43
6.1 アンインストール対象の確認 43
6.2 ページレイアウト割り当てを変更 44
6.3 Fleekdrive 関連リスト用 Visualforce ページを削除 46
6.4 アンインストールの実行 47

7　注意事項 51
7.1　Salesforce から Fleekdrive 機能を使用される場合 51
7.2　Fleekdrive Salesforce 版と Fleekdrive の両方を使用される場合 51
7.2.1　ユーザ情報について 51
7.2.2　メニュー画面の表示について 52
7.3　Safari を使用している場合 52
7.4　カスタマイズについて 53

1　はじめに

この度は、Fleekdrive をご利用頂き誠にありがとうございます。Fleekdrive は、salesforce におけるファイル（文書）管理、帳票生成管理、情報漏洩防止を実現します。

PDF 帳票作成、大容量ファイル配信、ファイルのバージョン管理やアクセス管理、共有とコラボレーション、証跡管理等、業務のインとアウトにおけるファイル（文書）に関する課題をワンストップで解決します。また、情報漏洩防止機能により、クラウドと PC でファイルを自動暗号化、PC からのファイルの持出禁止制御により、個人情報や機密情報をクラウド上で安全に取り扱うことが可能です。ネットワーキング、ファイル共有、セキュリティを統合したオンデマンドサービスです。

本書は、Fleekdrive に関するインストール及び、設定、salesforce での操作に関するガイドです。Fleekdrive の使用方法は、Fleekdrive オンラインマニュアルを参照願います。

2　インストール

Fleekdrive をインストールするには Chatter が有効化されている必要があります。
インストールする Salesforce 組織で Chatter が無効となっている場合は、事前に有効化してからインストールを行ってください。
また、パッケージのインストールにつきましては Salesforce 側の製品の挙動となりますので、ご不明な点等ございましたら、Salesforce のサポートにお問い合わせいただきますよう、お願い申し上げます。

2.1　AppExchange サイトを開く

インストールしたい Salesforce のサイトにログインし、左上の ”アプリケーションランチャー” ボタンからアプリーケーションランチャーを開き、一番下の”すべて表示”をクリックします。

図 2-1



画面全体にアプリケーションランチャーが表示された右上に”AppExchange にアクセス”というボタンが表示されるので、クリックすることで AppExchange のサイトを開きます。

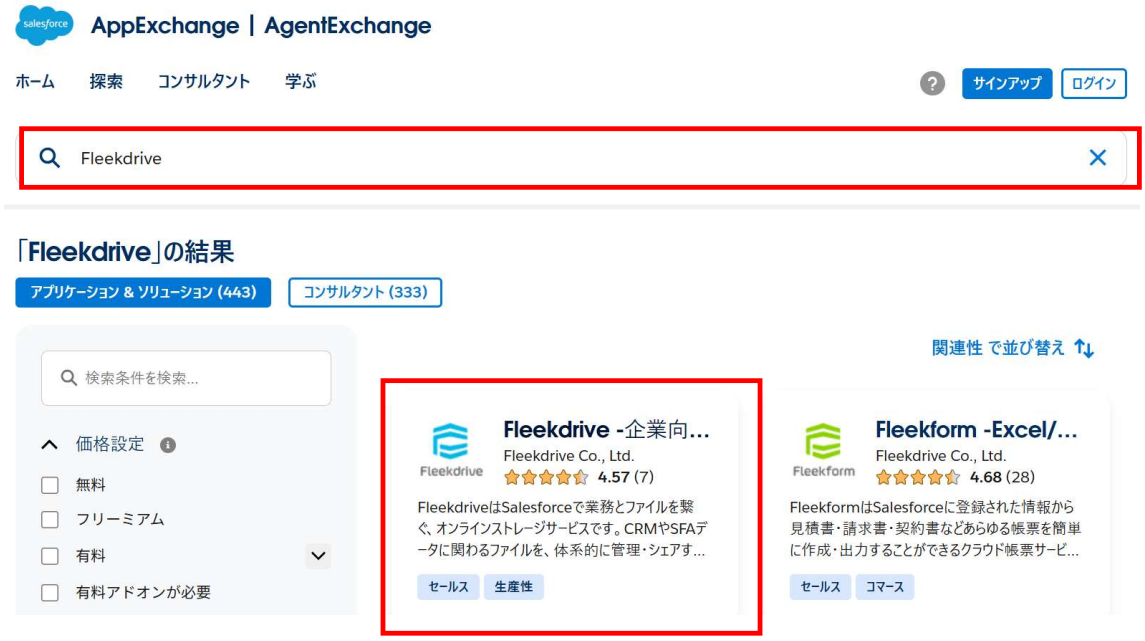
図 2-2



2.2　AppExchange の Fleekdrive の製品ページを開く

AppExchange のサイトが開きましたら、上部検索ボックスに”Fleekdrive”を入力して検索を行い、Fleekdrive 製品ページを開きます。

図 2-3



2.3　パッケージのインストールの前準備

ここから Fleekdrive のパッケージをインストールしますが、インストールしたい Salesforce の組織が本番環境なのか Sandbox 環境なのかで変わります。

2.3.1　本番環境へのインストール

”今すぐ入手”のボタンをクリックします。

図 2-4



“はじめに”の画面が開きますので、左側の”ログイン”ボタンをクリック、

図 2-3



ログイン画面におきましては”Salesforce”をクリックし、インストールを行いたい組織にログインします。

図 2-4



ログイン後、

・“ **tbid.digital.salesforce.com**”からのアクセスの許可が求められた場合は、許可を行います。

・”シングルユースコード”の入力を求められた場合は、ログインをしたユーザのメールアドレス宛に”シングルユースコード”が送信されるため、入力して”コードを送信”をクリックします。

図 2-5



また、複数のアカウントを使用していると、どの環境にインストールするかを聞かれる場合がありますので、インストールをしたい組織を選択します。

図 2-5



続いて、”インストールの詳細を確認”のダイアログが表示されますので、契約条件に同意した上で、右下の”確認してインストール”をクリックします。

図 2-6



再度ログイン画面が表示されるので、認証情報を入力すると、パッケージインストールの詳細画面が表

示されます。(2.4 に進む。)

2.3.2 Sandbox へのインストール

”試してみる”のボタンをクリックします。

図 2-7



“トライアルを開始の画面が表示されるため、”Sandbox で試す”を選択し、右下の”インストールに進む”をクリックします。

図 2-8



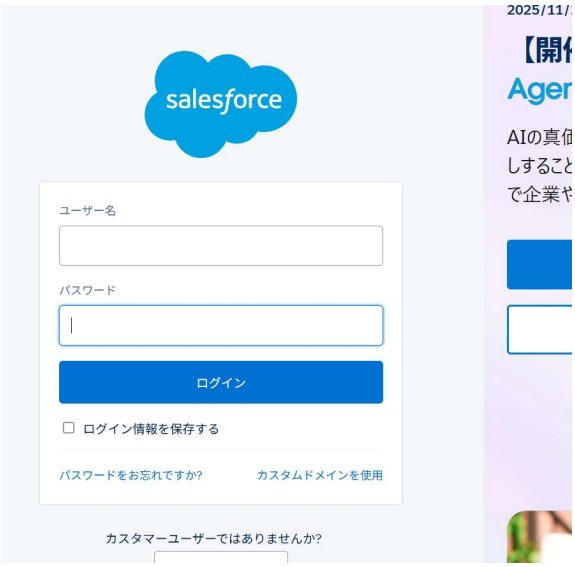
続く画面で”ログイン&インストール”ボタンをクリックします。

図 2-9



ログイン画面が表示されますので、インストールしたい Sandbox 環境のアカウントでログインを行うと、パッケージインストールの詳細画面が表示されます。(2.4 に進む。)

図 2-10



2.4　パッケージのインストール（本番環境・Sandbox 環境共通）

パッケージインストールの詳細画面が表示されたら、次にインストール対象の選択を行いますが、ここでは、「すべてのユーザのインストール」を選択してください。

※「すべてのユーザのインストール」を選択しても、Fleekdrive ではユーザ毎のライセンスに応じて利用可・不可を制御しています。ライセンスは後のステップで設定します。

※このステップでデフォルト選択の「管理者のみのインストール」のまま進んでしまうと、システム管理者以外のシステム権限が設定されたユーザでは、別途手動で設定しないと Fleekdrive を使用できなくなりますのでご注意ください。

図 2-11



サードパーティアクセスの承認画面が表示されますので、内容を確認した上、許可をチェックして、「次へ」ボタンをクリックして、インストールを続行します。

図 2-12



1～2 分程度で次の処理中画面が表示されます。

図 2-13



8～10 分程度でインストールが完了します。
インストールが完了すると、インストールを実行したユーザ宛てにメールを送信します。
タイトル：「パッケージ「”Fleekdrive/Fleekform“」のインストールに成功しました」
画面は「処理中」のまま変更されませんが、このメールが届いたらインストール完了です。

メールが届いたら「インストール済みパッケージ」を確認します。
メニュー：設定＞プラットフォームツール＞アプリケーション＞インストール済みパッケージ

図 2-14



アプリケーションランチャーに「Fleekdrive」と「Fleekform」が追加されています。

図 2-15



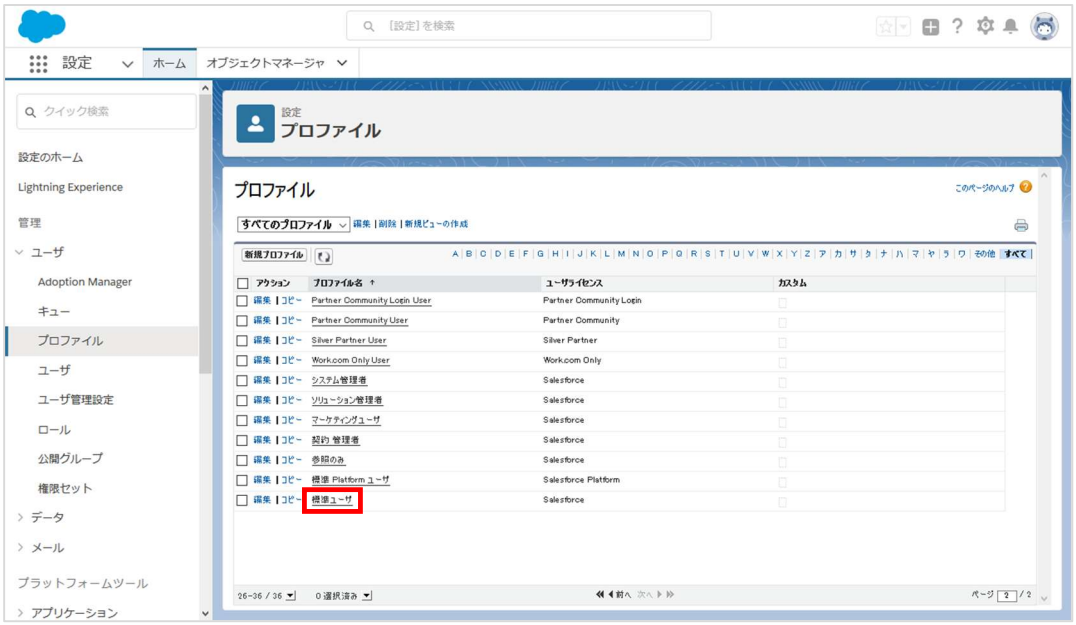
3　使用前の準備

3.1　ユーザ情報のレイアウトの設定

設定＞管理＞ユーザ＞プロファイル　を選択し、Salesforce プロファイルの一覧を表示します。

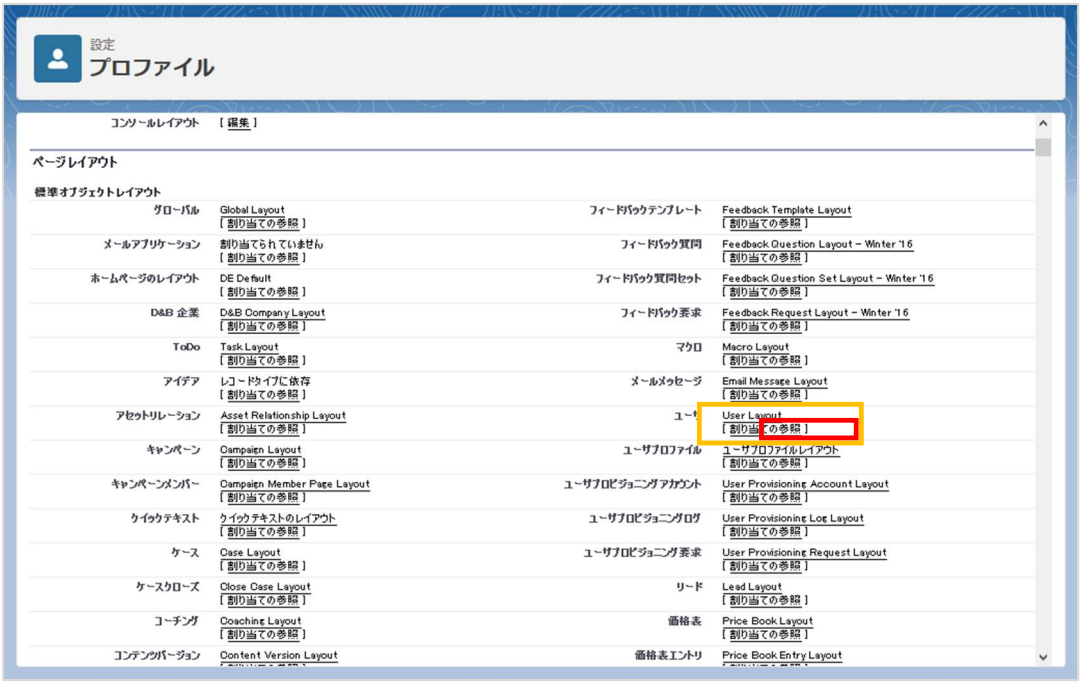
システム管理者や標準ユーザなど、Fleekdrive を使用されるユーザに設定するプロファイルを 1 つ選択し、編集画面を開きます。

図 3-1



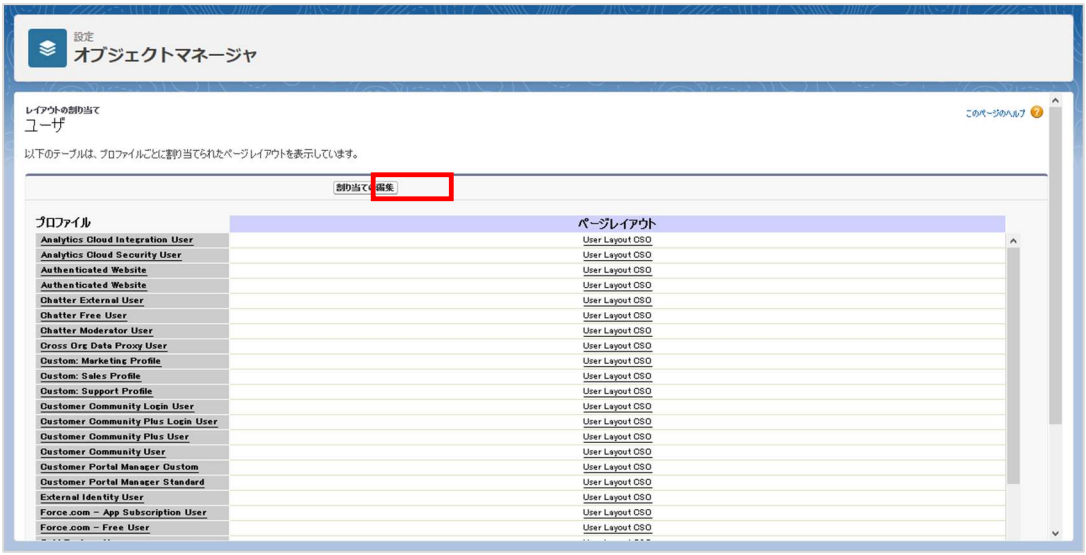
ページレイアウトの標準オブジェクトレイアウトにある「ユーザ」のレイアウトについて、「割り当ての参照」をクリックします。

図 3-2



「割り当ての編集」ボタンをクリックします。

図 3-3



Fleekdrive を使用するユーザに設定する可能性がある Salesforce プロファイルを選択し、私用するページレイアウトで「User Layout CSO」を選択して変更してください。

※Salesforce のユーザライセンスの種類による制限はありません。

図 3-4 のように一部のプロファイルだけ設定することも、全て選択して設定することも可能です。

図 3-4



ページレイアウトの割り当て変更が選択し終わったら「保存」をクリックしてください。

図 3-5



設定＞管理＞ユーザ＞ユーザ、または、画面右上のユーザアイコンより自身の名前をクリックすると、Fleekdrive 用の設定項目が追加されています。

初期表示状態は全て空欄(未選択)です。

図 3-6

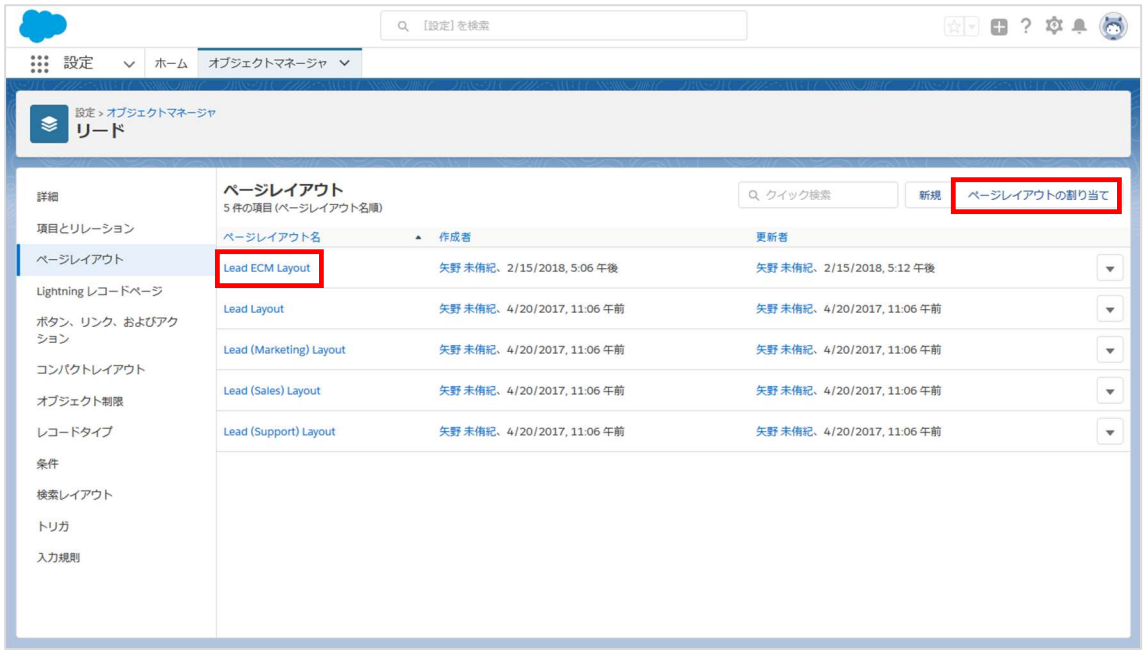


3.2 Fleekdrive ファイル連携一覧用のレイアウト割り当て変更

Salesforce の標準オブジェクトに Fleekdrive ファイルを連携する場合、標準オブジェクトのページレイアウトの割り当てを「ECM Layout」に変更する必要があります。

設定＞オブジェクトマネージャ＞対象オブジェクト＞ページレイアウト

図 3-7

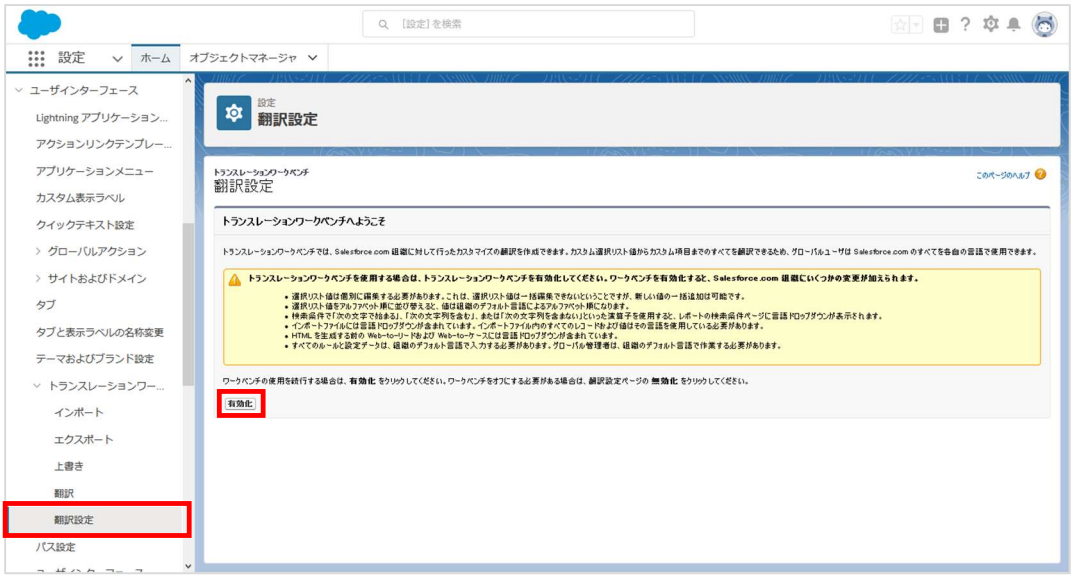


3.3　翻訳設定

Fleekdrive で対応する言語は、日本語・英語・中国語（簡体字）・ポルトガル語・スペイン語です。
Salesforce の個人情報に設定された言語で Fleekdrive メニューを表示する為に、下記の手順で翻訳設定を有効にしてください。

設定＞ユーザインターフェース＞トランスレーションワークベンチ＞翻訳設定を選択します。
トランスレーションワークベンチが有効化されていない場合は、「有効化」ボタンをクリックし、有効化してください。

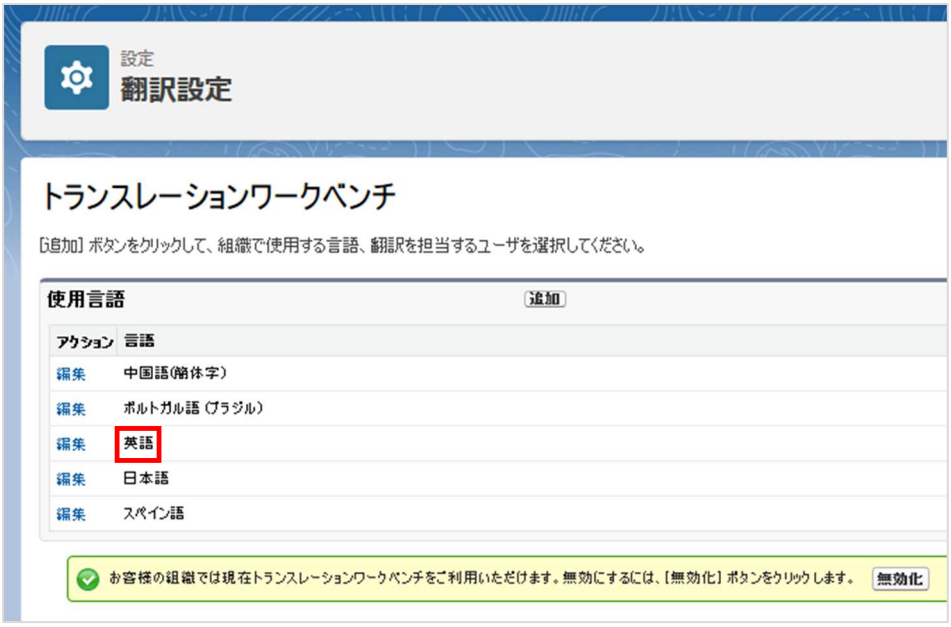
図 3-8



ユーザの言語設定で「英語」、「中国語(簡体字)」、「ポルトガル語」、「スペイン語」を使用する場合、初期状態では翻訳が無効のため、Fleekdrive メニューの画面表示が日本語のまま変更されません。以下の手順で有効化してください。

①　「英語」の「編集」をクリックします。

図 3-9



② 有効にチェックを入れて保存します。下側の翻訳者設定は不要です。

図 3-10



③ 中国語(簡体字)、ポルトガル語、スペイン語も同様に有効化してください。

有効化した言語は図 3-11 のように表示されます。

図 3-11



※追加した言語は削除できません。不要な言語は、編集画面で「有効」のチェックを外します。

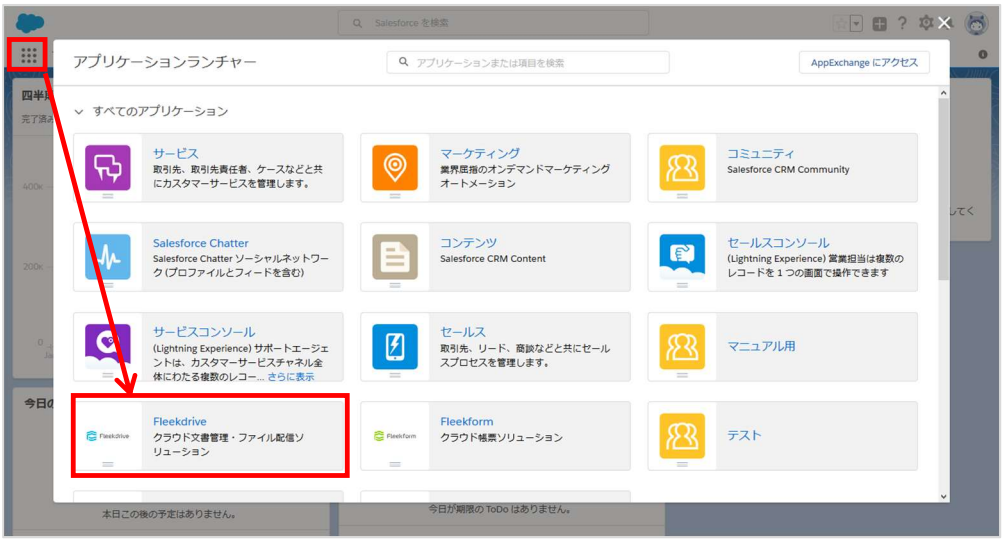
4　設定

Fleekdrive をインストール後、使用開始する前に Salesforce のシステム管理者が行う設定手順を説明します。

4.1　Fleekdrive 用システム管理者設定

アプリケーションランチャーより、「Fleekdrive」を選択して、Fleekdrive 用の画面へ移行します。

図 4-1



Fleekdrive のメニューである「Fleekdrive ファイル共有」「Fleekdrive ファイル配信」「Fleekdrive ワークフロー」「Fleekdrive 設定」「Fleekdrive ダッシュボード」タブのいずれかをクリックすると Fleekdrive 用の初期設定ウィザードが開始されます。

図 4-2



4.1.1　セットアップ方法の選択

新規申込またはセキュリティトークンを使用した再セットアップの選択をしてください。

図 4-3

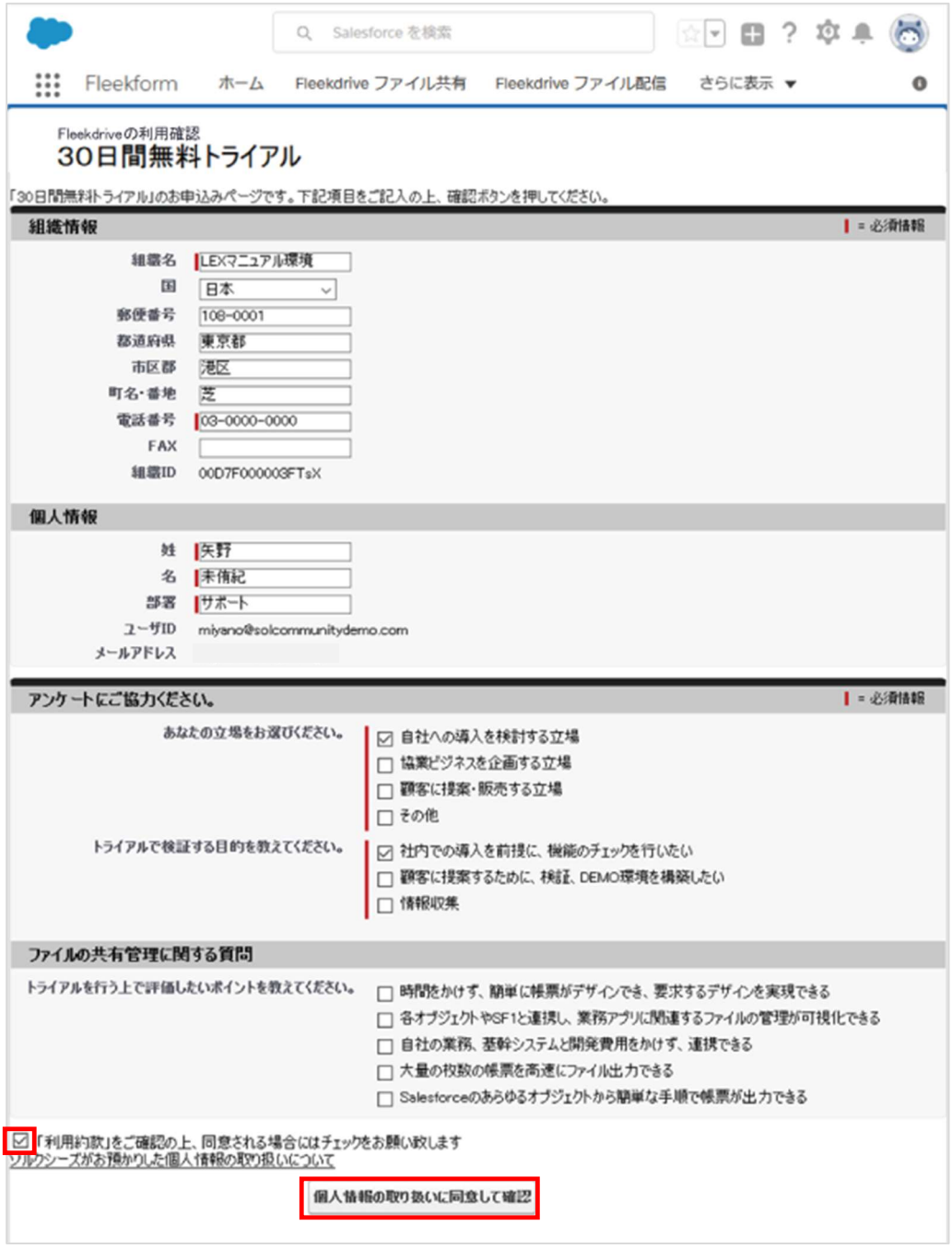


4.1.2 トライアル実施者の情報を入力

画面左下に弊社の個人情報の取り扱いについてのリンクがございますので、「利用約款」をご確認の上、同意される場合にはチェックをお願いします。

同意される場合は、「個人情報の取り扱いに同意して確認」ボタンをクリックして進みます。

図 4-4



お申込が完了しました。

図 4-5

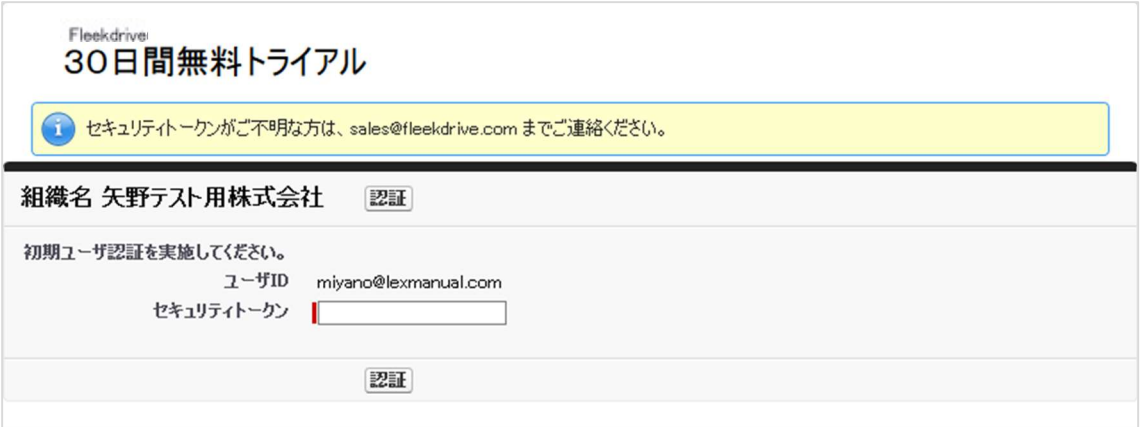


4.1.3 セキュリティトークンを使用した再セットアップ

Fleekdrive 初期ユーザのセキュリティトークンを入力し、「認証」をクリックしてください。Salesforce ユーザのセキュリティトークンとは異なりますので、ご注意ください。

Fleekdrive のトークンが不明な場合は、弊社サポートデスクまでお問い合わせください。

図 4-6



5 Fleekdrive 使用前に必要なその他設定について

Fleekdrive ユーザ作成後、Fleekdrive を使用する場合に Salesforce のシステム管理者が設定すべき項目を記述します。

5.1 ユーザの Fleekdrive 設定の編集

設定＞管理＞ユーザ＞ユーザを選択し、Salesforce のユーザー覧を表示します。

Fleekdrive 用の設定項目を確認・編集するユーザのユーザ名をクリックし参照します。

図 5-1

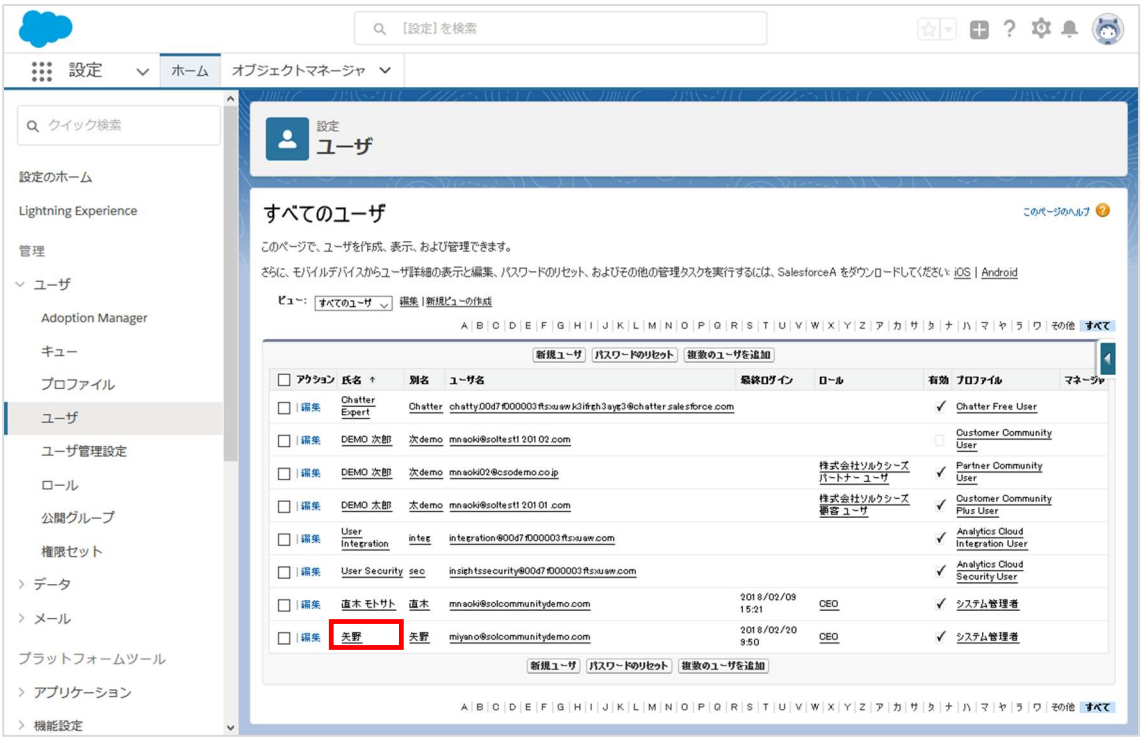


表 5-1 User Layout CSO の設定項目

項目	説明
姓(フリガナ) 名(フリガナ)	初期値は空欄です。設定するとFleekdrive の画面表示でユーザ名のソートが正確になります。設定されたフリガナによるユーザ名検索も可能です。必要に応じて設定してください。
システム権限名称	Salesforce システム権限が「システム管理者」の場合はFleekdrive も「システム管理者」に、それ以外の場合は「標準ユーザ」で設定されます。 ユーザ情報の編集画面には表示されませんので、ユーザ情報の参照画面の「Fleekdrive システム権限」リンク部分をクリックし、別Window で選択して「選択」ボタンをクリックしてください。
Fleekdrive 有効	チェックすると Fleekdrive が有効（使用可能）になります。 自分自身の有効／無効は変更できません。 初めて Fleekdrive 有効にチェックした場合、Fleekdrive にユーザが作成されます。 既に Fleekdrive を使用しているユーザのチェックを外すとFleekdrive が無効になり、使用できなくなります。無効になったユーザのマイスペースのファイルは、ユーザを無効に変更したユーザの

	マイスペースに引き継がれます。
誕生日	ユーザの誕生日です。
ロック	初期設定はチェックなしです。自分自身のロック状態は変更できません。チェックするとそのユーザは Fleekdrive 機能を使用できなくなります。Fleekdrive 無効と異なり、Fleekdrive に保存されたデータと設定はそのまま残り、ロックのチェックを外せば使用可能になります。
Fleekdrive 新ユーザインターフェース	※使用しません。
Fleekdrive Chatter 連携	初期設定はチェックなしです。ファイル共有の Chatter 連携機能を使用する場合にチェックします。ユーザの権限に応じて、コラボスペースとカンパニースペースにスペースの作成／編集を行う時に、Chatter 連携の設定が可能になります。
Fleekdrive の管理者向けニュースレター	Fleekdrive 初期ユーザには初期設定でチェックが入ります。 チェックを入れると、サポートデスクからのメンテナンスメール等の案内を受け取ることができます。
ディスク使用量	ユーザのマイスペースで使用中のサイズを表示します。編集対象外です。
ディスク容量(GB)	初期設定ではトライアル組織の場合 5GB、それ以外の組織は無制限（-1 を設定）となります。そのユーザのマイスペースの最大値となります。
配信使用量	ユーザが配信したメールからダウンロードされたファイルの使用量を表示します。編集対象外です。
配信容量(GB)	初期設定ではトライアル組織の場合 5GB、それ以外の組織は無制限（-1 を設定）となります。そのユーザの配信ダウンロード量の最大値となります。
ディスク容量閾値有効	チェックありの場合に、設定した閾値を超過するとメールで自分に通知します。チェックなしの場合、閾値と閾値単位は空になります。
ディスク容量閾値 ディスク容量閾値単位	ディスク使用量がここで設定した値を超えると、メールで自分に通知することができます。単位は GB または%です。無制限にする場合は-1 を設定し、マイスペースを使用不可とする場合は 0 を設定してください。 無制限または使用不可ではない場合は 1～の整数で指定します。
配信容量閾値有効	チェックありの場合に、設定した閾値を超過するとメールで自分に通知します。チェックなしの場合、閾値と閾値単位は空になります。
配信容量閾値 配信容量閾値単位	配信メールからのダウンロード使用量がここで設定した値を超えると、メールで自分に通知することができます。単位は GB または%

	です。無制限にする場合は-1 を設定し、マイスペースを使用不可とする場合は 0 を設定してください。無制限または使用不可ではない場合は 1～の整数で指定します。
利用開始日、利用開始時間	ユーザが Fleekdrive を利用可能になる日時を指定します。
利用終了日、利用終了時間	ユーザが Fleekdrive を利用終了する日時を指定します。
Fleekform 有効	※Fleekdrive では使用しません。
Fleekform 新ユーザインターフェース	※Fleekdrive では使用しません。
Fleekform の管理者向けニュースレター	※Fleekdrive では使用しません。

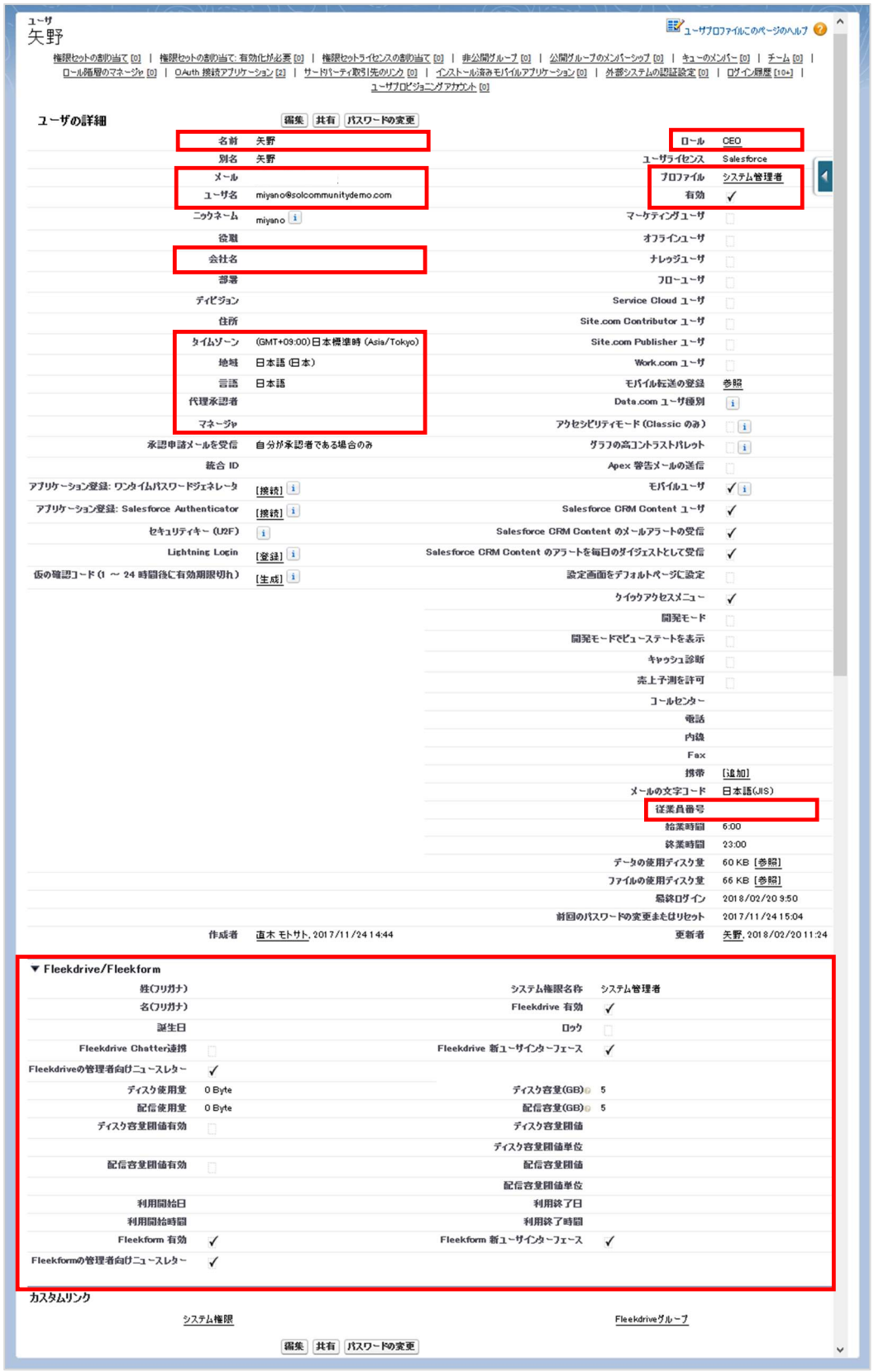
図 5-2 の赤枠で囲まれた項目は Salesforce から Fleekdrive へ同期される項目です。
Salesforce のユーザレコード上で同期対象の項目が編集された場合、編集した内容が Fleekdrive へ反映されます。
Salesforce のロールは Fleekdrive の「部署・役職」として同期します。

表 5-2

項目名	説明
名前（姓、名）	ユーザの氏名。Salesforce では姓のみ必須となっておりますが、Fleekdrive では姓・名ともに必須項目の為、姓・名ともに入力してください。
メール	メールアドレスを入力してください。 ⚠ メールアドレスを変更した場合、Salesforce のユーザ情報には保存ボタンをクリックしたときには反映されません。変更後のメールアドレス宛てに確認メールが送られ、メール記載のリンクから確認作業を行うと反映されます。ただし、Fleekdrive のユーザ情報には保存ボタンをクリックしたタイミングで反映されますのでご注意ください。
ユーザ名	ログイン時に入力する ID となります。ユーザ名の変更権限があるユーザまたはシステム管理者の場合、後日変更も可能です。
会社名	Fleekdrive のファイル配信機能使用時に、メール本文内の会社名を記載する場合に使用します。空欄の場合は宛先などの会社名部分も空欄になります。（Fleekdrive 配信の署名機能と合わせて調整してください。） ⚠ コミュニティユーザ等、別会社のユーザが含まれる可能性がある為、組織情報の組織名では表示しませんのでご注意ください。
システム権限	Salesforce のユーザ権限を指定します。Fleekdrive ユーザ作成時、Salesforce のシステム権限が「システム管理者」の場合は Fleekdrive システム権限も「システム管理者」に、それ以外の場合は Fleekdrive システム権限が「標準ユーザ」となります。
有効	チェックが入っている間は Salesforce のユーザとして有効です。 チェックを外して Salesforce を無効にすると、同時に Fleekdrive ユーザとしても無効に

	なります。無効になったユーザのマイスペースに在るファイルは無効にしたユーザに引き継がれます。
タイムゾーン	Fleekdrive では 2012 年月 8 時点に Salesforce のユーザ情報で選択可能な都市別タイムゾーンに対応しました。今後の都市の追加などにより、Fleekdrive で未対応のタイムゾーンを指定した場合、太平洋標準時（America/Los_Angels。冬時間で GMT-8:00）として扱います。
言語	Fleekdrive では日本語、英語、中国語（簡体字）、ポルトガル語、スペイン語に対応しています。 それ以外の言語を指定した場合は英語で表示します。
代理承認者	指定されたユーザが Fleekdrive 有効の場合、Fleekdrive でも「代理承認者」になります。
マネージャ	指定されたユーザが Fleekdrive 有効の場合、Fleekdrive では「上長」として扱います。
従業員番号	入力値をそのまま Fleekdrive の「社員番号」に設定します。

図 5-2


ユーザ
矢野
ユーザプロファイルこのページのヘルプ
権限セットの割り当て [0] | 権限セットの割り当て: 有効化が必要 [0] | 権限セットライセンスの割り当て [0] | 非公開グループ [0] | 公開グループのメンバーシップ [0] | キューのメンバー [0] | チーム [0] |
ロール階層のマネージャ [0] | OAuth 接続アプリケーション [2] | サードパーティ取引先のリンク [0] | インストール済みモバイルアプリケーション [0] | 外部システムの認証設定 [0] | ログイン履歴 [10+] |
ユーザプロビジョニングアカウント [0]
ユーザの詳細
編集 共有 パスワードの変更
名前 矢野
別名 矢野
メール
ユーザ名 miyano@solcommunitydemo.com
ニックネーム miyano
役職
会社名
部署
ディビジョン
住所
タイムゾーン (GMT+09:00) 日本標準時 (Asia/Tokyo)
地域 日本語 (日本)
言語 日本語
代理承認者
マネージャ
承認申請メールを受信 自分が承認者である場合のみ
統合 ID
アプリケーション登録: ワンタイムパスワードジェネレータ [接続]
アプリケーション登録: Salesforce Authenticator [接続]
セキュリティキー (U2F)
Lightning Login [登録]
仮の確認コード (1 ～ 24 時間後に有効期限切れ) [生成]
ロール CEO
ユーザライセンス Salesforce
プロファイル システム管理者
有効
マーケティングユーザ
オフラインユーザ
ナレッジユーザ
フローユーザ
Service Cloud ユーザ
Site.com Contributor ユーザ
Site.com Publisher ユーザ
Work.com ユーザ
モバイル転送の登録 参照
Data.com ユーザ種別
アクセシビリティモード (Classic のみ)
グラフの高コントラストパレット
Apex 警告メールの送信
モバイルユーザ
Salesforce CRM Content ユーザ
Salesforce CRM Content のメールアラートの受信
Salesforce CRM Content のアラートを毎日のダイジェストとして受信
設定画面をデフォルトページに設定
クイックアクセスメニュー
開発モード
開発モードでビューステートを表示
キャッシュ診断
売上予測を許可
コールセンター
電話
内線
Fax
携帯 [追加]
メールの文字コード 日本語(JIS)
従業員番号
始業時間 6:00
終業時間 23:00
データの使用ディスク量 60 KB [参照]
ファイルの使用ディスク量 66 KB [参照]
最終ログイン 2018/02/20 9:50
前回のパスワードの変更またはリセット 2017/11/24 15:04
作成者 直木 モトサト, 2017/11/24 14:44
更新者 矢野, 2018/02/20 11:24
Fleekdrive/Fleekform
姓(フリガナ)
名(フリガナ)
誕生日
Fleekdrive Chatter連携
Fleekdriveの管理者向けニュースレター
ディスク使用量 0 Byte
配信使用量 0 Byte
ディスク容量閾値有効
配信容量閾値有効
利用開始日
利用開始時間
Fleekform 有効
Fleekformの管理者向けニュースレター
システム権限名称 システム管理者
Fleekdrive 有効
ロック
Fleekdrive 新ユーザインターフェース
ディスク容量(GB) 5
配信容量(GB) 5
ディスク容量閾値
ディスク容量閾値単位
配信容量閾値
配信容量閾値単位
利用終了日
利用終了時間
Fleekform 新ユーザインターフェース
カスタムリンク
システム権限
Fleekdriveグループ
編集 共有 パスワードの変更

5.2　信頼済ドメイン URL の編集

1. Salesforce の設定アイコン（画面右上歯車マーク）をクリック＞[設定]に移動します。
2. 画面遷移後に、[クイック検索] ボックスに「信頼済み URL」と入力し、検索結果の[信頼済み URL] を選択します。
3. 表示された画面の[信頼済み URL]下にある[新規信頼済み URL]をクリックします。
4. 画面遷移後に、下記 表 5-4 の情報をご入力ください。

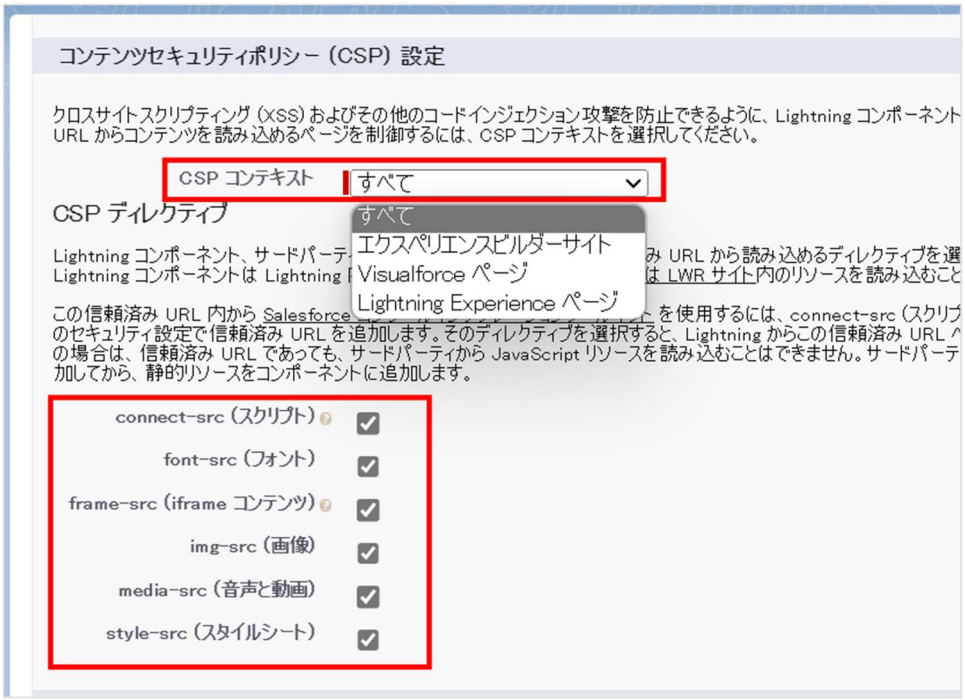
表 5-4

項目	説明
API 参照名	任意の参照名をご入力ください。アンダースコアと英数字のみの対応です。
URL	https://appsf.fleekdrive.com
説明	ご入力は任意です。
有効	チェックを入れてください。
コンテンツセキュリティポリシー（CSP）設定	下記のチェックを入れて下さい。 **CSP コンテキスト:すべて** **CS ディレクティブ:すべて** 特に connect-src (スクリプト)と frame-src (iframe コンテンツ)のチェック抜けにご注意ください。

図 5-2-1


設定
信頼済み URL
信頼済み URL
信頼済み URL 情報を指定し、1 つ以上のディレクティブを選択します。
信頼済み URL にはドメイン名を含める必要があり、ポートを含めることができます。たとえば、https://exar
繰り返しを減らすには、ワイルドカード文字 * (アスタリスク) を使用できます。たとえば、*.example.com で
サードパーティ API では、URL は https:// で始まる必要があります。たとえば、https://example.com で
WebSocket 接続では、URL は wss:// で始まる必要があります。たとえば、wss://example.com です。
信頼済み URLの編集
保存
保存 & 新規
キャンセル
信頼済み URL 情報
API 参照名
test
URL
https://appsf.fleekdrive.com
説明
有効

図 5-3-2


コンテンツセキュリティポリシー (CSP) 設定
クロスサイトスクリプティング (XSS) およびその他のコードインジェクション攻撃を防止できるように、Lightning コンポーネント
URL からコンテンツを読み込めるページを制御するには、CSP コンテキストを選択してください。
CSP コンテキスト
すべて
CSP ディレクティブ
すべて
エクスペリエンスビルダーサイト
Visualforce ページ
Lightning Experience ページ
connect-src (スクリプト)
font-src (フォント)
frame-src (iframe コンテンツ)
img-src (画像)
media-src (音声と動画)
style-src (スタイルシート)

5.3　Chatter 連携機能を使用する場合

Salesforce の Chatter 機能を使用して、Fleekdrive のファイル共有の操作内容を通知する Chatter 連携機能を使用する場合にユーザが設定すべき項目を記述します。

5.3.1 Chatter グループ設定

Fleekdrive で Chatter 連携を使用する前に、Salesforce の機能である Chatter について、グループとメンバーの設定をしてください。

初期状態で全社用のグループは作成されていますが、グループにメンバーが正常に登録された状態でなければ、Fleekdrive から Chatter 連携機能を使用できないことがあります。

全社用以外のグループは、お客様の環境に応じて適宜設定してください。

5.3.2 Fleekdrive で Chatter 連携の設定

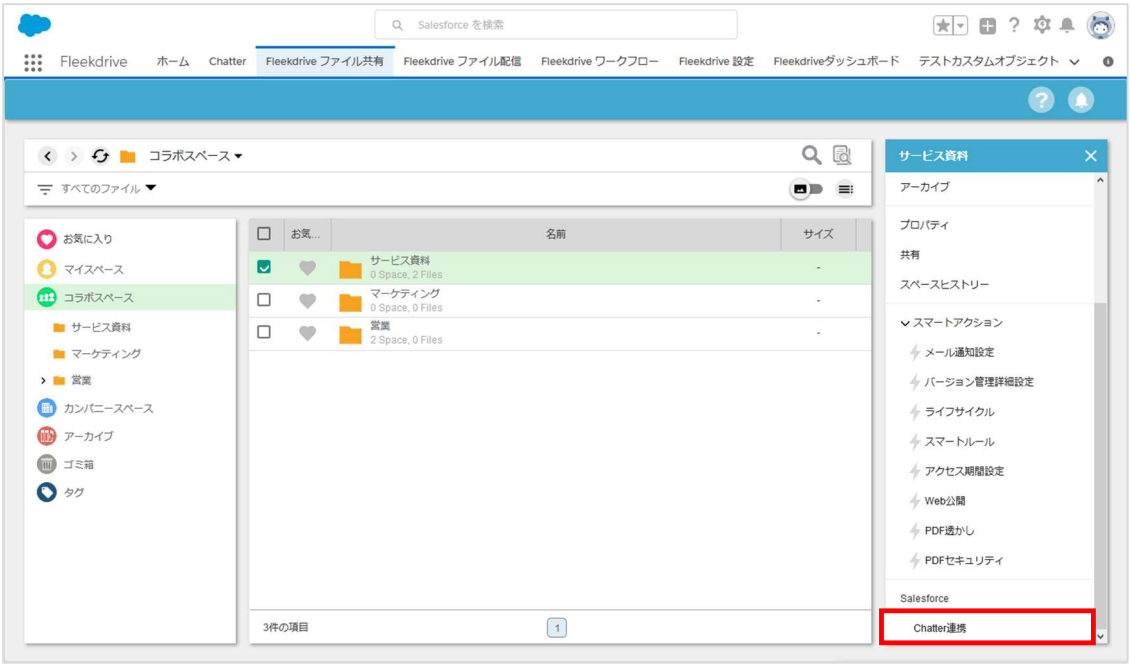
Chatter 連携はユーザ毎の設定となります。

ユーザ情報の Fleekdrive 設定項目「Fleekdrive Chatter 連携」にチェックを入れると、そのユーザはファイル共有画面で Chatter 連携の設定ができるようになります。

Chatter 連携を設定できるのはファイル共有のコラボスペースとカンパニースペースになります。マイスペースには設定できません。

Chatter 連携を行いたいスペースを選択し、ライトナビから「Chatter 連携」を選択します。

図 5-4



Chatter 連携の設定が表示されますので、ファイル追加時の Chatter 通知方法、共有先グループ、配下のスペースに適用するかどうかを設定し、「OK」ボタンをクリックして保存します。

Chatter による通知を設定したユーザが、そのスペースでファイルの操作を行った場合、共有先の Chatter グループメンバーに通知されます。
スペースに対する通知の設定はユーザ毎に行う必要があります。

5.4 Salesforce コミュニティユーザが Fleekdrive メニューを使用する場合

Salesforce コミュニティユーザと Fleekdrive メニューを共有する場合に、ユーザが設定すべき項目を記述します。

5.4.1 デジタルエクスペリエンス(コミュニティ)の有効化

Salesforce の設定＞機能設定＞デジタルエクスペリエンス＞すべてのサイトからワークスペースを表示し、管理＞設定からサイトを有効化済みであることが前提になります。

5.4.2 Fleekdrive のタブ表示設定

Fleekdrive タブをコミュニティユーザが使用するには、サイトを“Salesforce タブと Visualforce”で作成する必要があります。
※その他のテンプレートで環境を構築する場合は、Fleekdrive タブを表示することはできません。

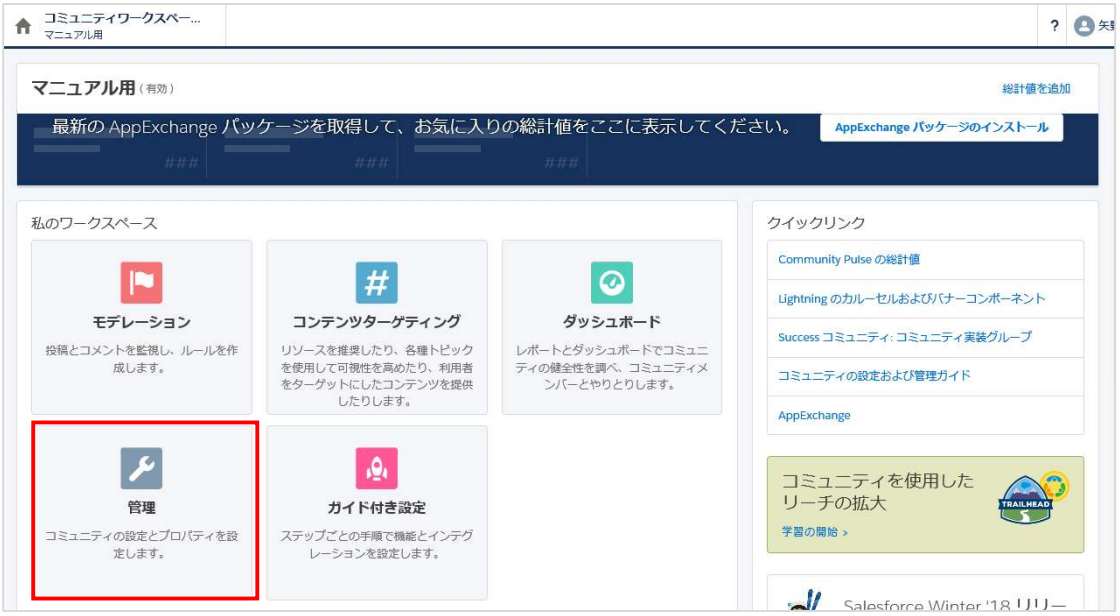
Salesforce の設定＞機能設定＞デジタルエクスペリエンス＞すべてのサイト メニューから、Salesforce タブと Visualforce で作成された既存サイトの「ワークスペース」をクリックします。

図 5-5



私のワークスペースの管理をクリックします。

図 5-6



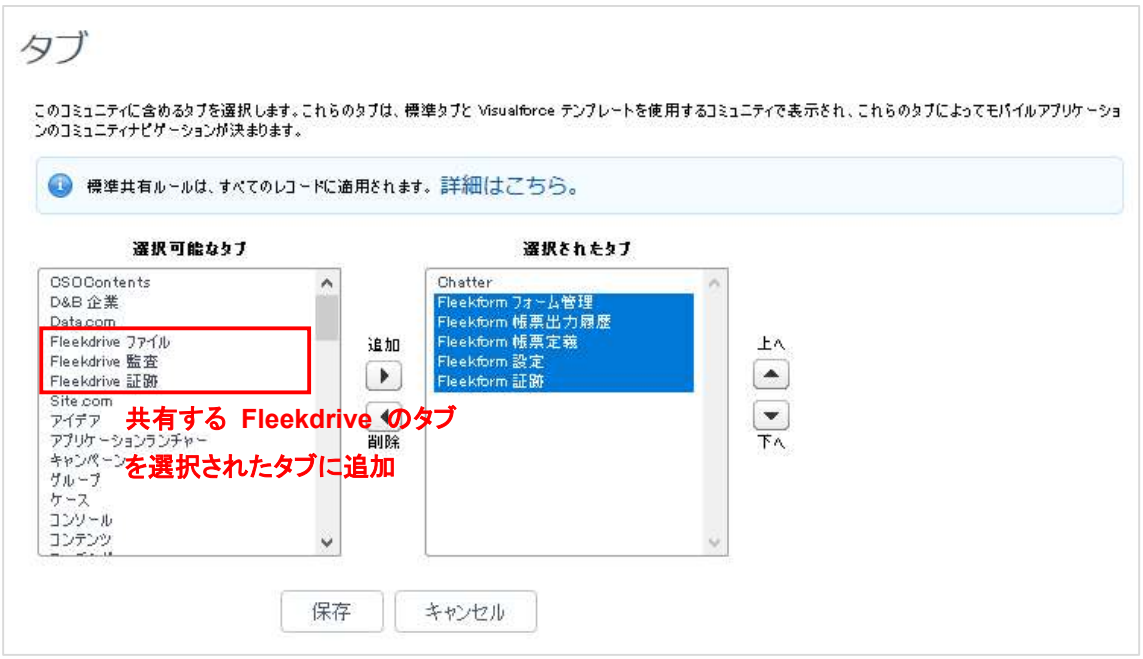
管理画面の「タブ」メニューをクリックします。

図 5-7



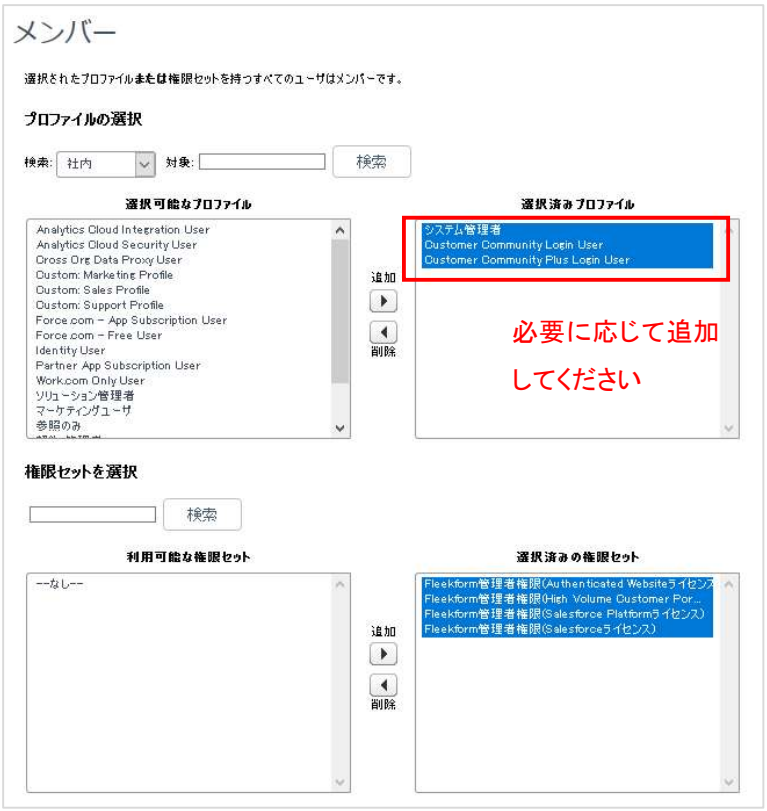
エクスペリエンスサイトに表示するタブを選択し、右側の選択されたタブに追加します。

図 5-8



同様に、左側にある「メンバー」をクリックし、メンバーの設定画面にてエクスペリエンスサイトを使用するプロファイルを追加して下さい。

図 5-9



この設定が適用されるユーザがログインすると、選択されたタブが表示され、ユーザの権限に応じた操作が可能になります。

図 5-10



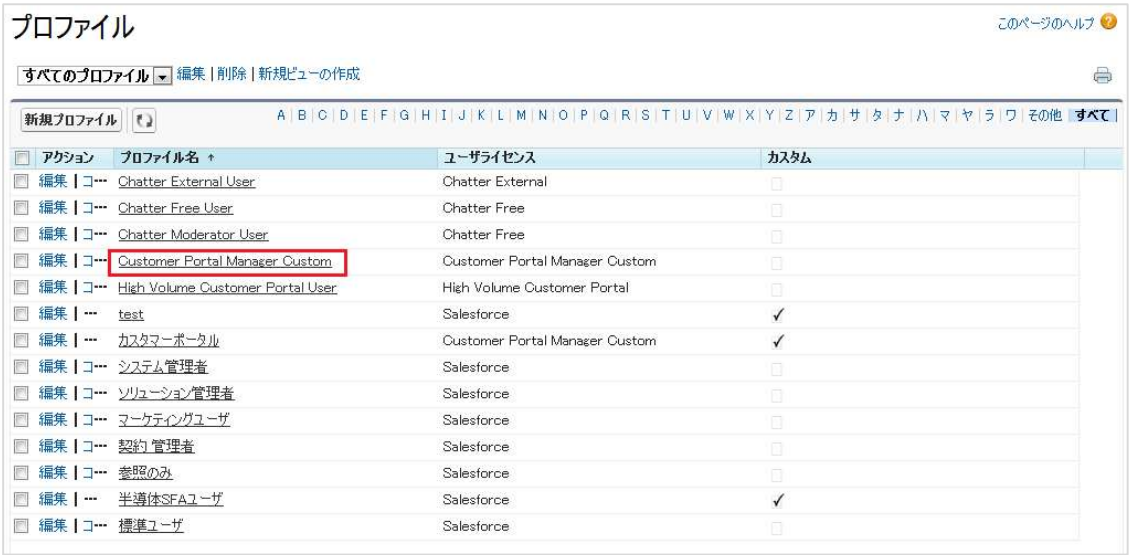
5.5 パッケージインストール後に有効化したシステム権限について

カスタマーポータルユーザなど各種ポータルユーザについて、パッケージインストール前に有効化していない場合、手動で設定しないと Fleekdrive の機能が使えません。

5.5.1 インストール後に有効化したプロファイルの場合

設定＞管理＞ユーザ＞プロファイルで、後から有効化したプロファイルを選択します。

図 5-11



プロファイルにある「Apex クラス」「有効な Visualforce ページ」を確認します。

下の図のように Fleekdrive 用の Apex クラス名と Visualforce ページ名が一覧表示されている場合は

以下の手順は不要です。(2件ずつに抜粋しています)

図 5-12

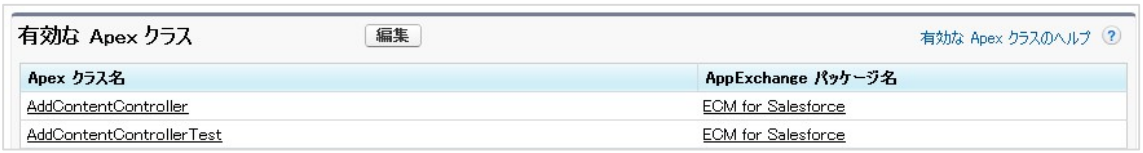
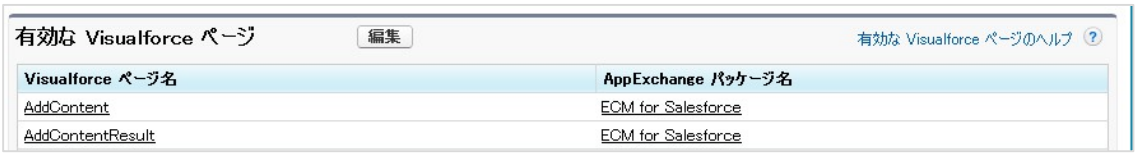
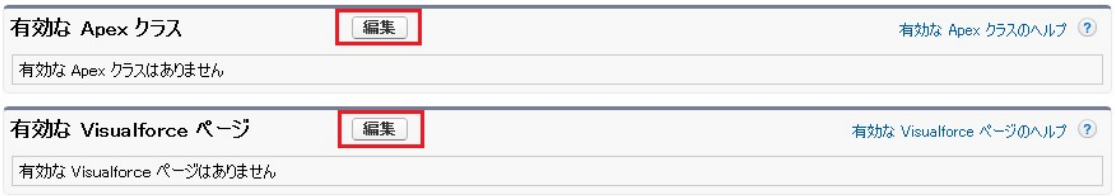


図 5-13



しかし、下記の様に「有効な Apex クラスはありません」「有効な Visualforce ページはありません」と表示される場合次の手順で有効化してください。

図 5-14



有効な Apex クラスの「編集」ボタンをクリックし、有効化画面を表示します。

図 5-15



左側の「利用可能な Apex クラス」をすべて選択し、中央の「追加」ボタンをクリックします。

図 5-16



選択した全ての Apex クラスが右側の「有効化された Apex クラス」に移動したことを確認したら「保存」ボタンをクリックします。

図 5-17



有効な Visualforce ページの「編集」ボタンをクリックし、有効化画面を表示します。

図 5-18



左側の「利用可能な Visualforce ページ」をすべて選択し、中央の「追加」ボタンをクリックします。

図 5-19



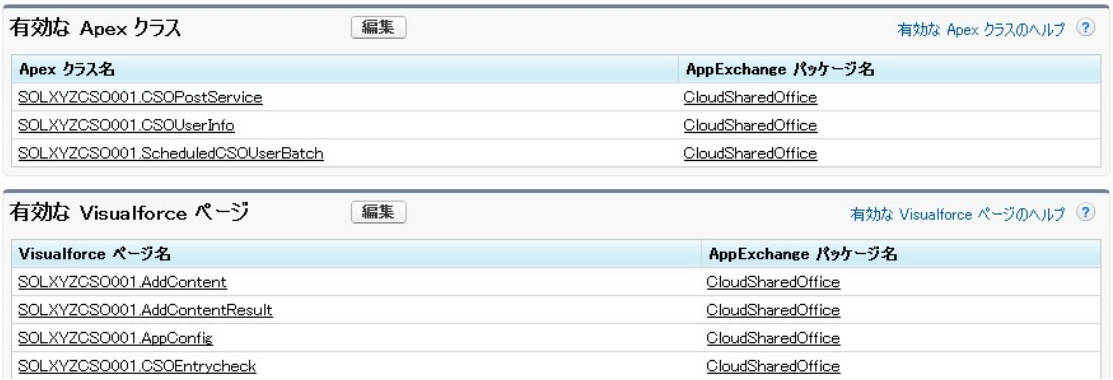
選択した全ての Visualforce ページが右側の「有効化された Visualforce ページ」に移動したことを確認したら「保存」ボタンをクリックします。

図 5-20



プロファイル画面で、有効な Apex クラスと Visualforce ページが一覧表示されたことを確認したら完了です。

図 5-21



インストール後に追加した Fleekdrive を使用するプロファイルが複数存在する場合は、すべて同様に設定してください。

5.6 インストール後に手動設定が必要なプロファイルについて

お客様の Salesforce ライセンスとユーザに設定されたプロファイルの種類によっては、パッケージをインストールしただけでは Fleekdrive メニューが使用できない状態になります。

5.6.1 プロファイル毎の手動設定

ライセンスの制限により、インストール後に Fleekdrive が使えないプロファイルの場合、5.5 パッケージインストール後に有効化したシステム権限についてと同様の手順で Apex クラスと Visualforce ページを有効化してください。

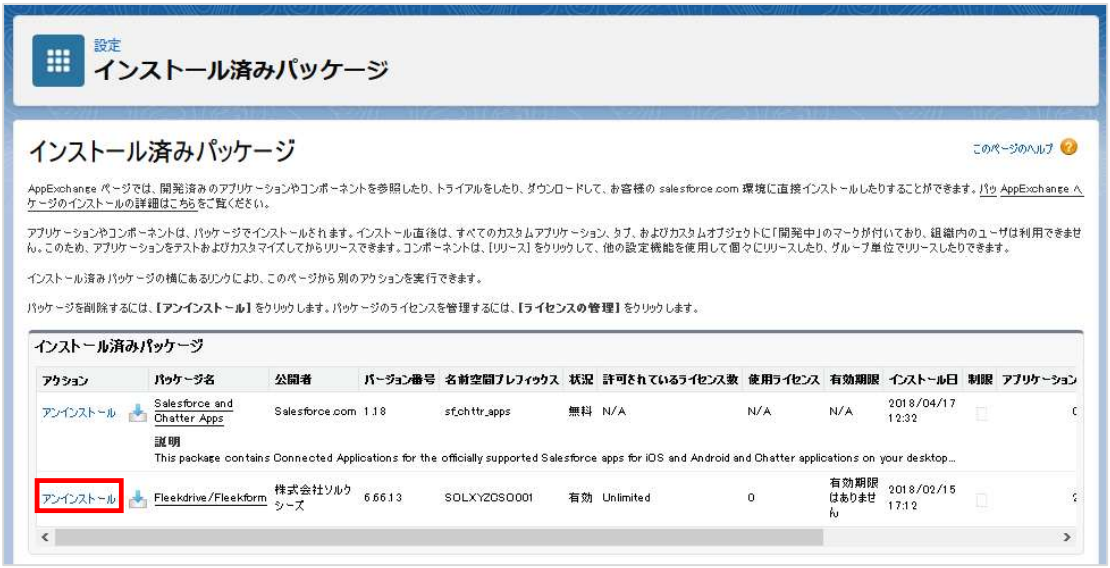
6　アンインストール

Fleekdrive のアンインストール方法について説明します。

6.1　アンインストール対象の確認

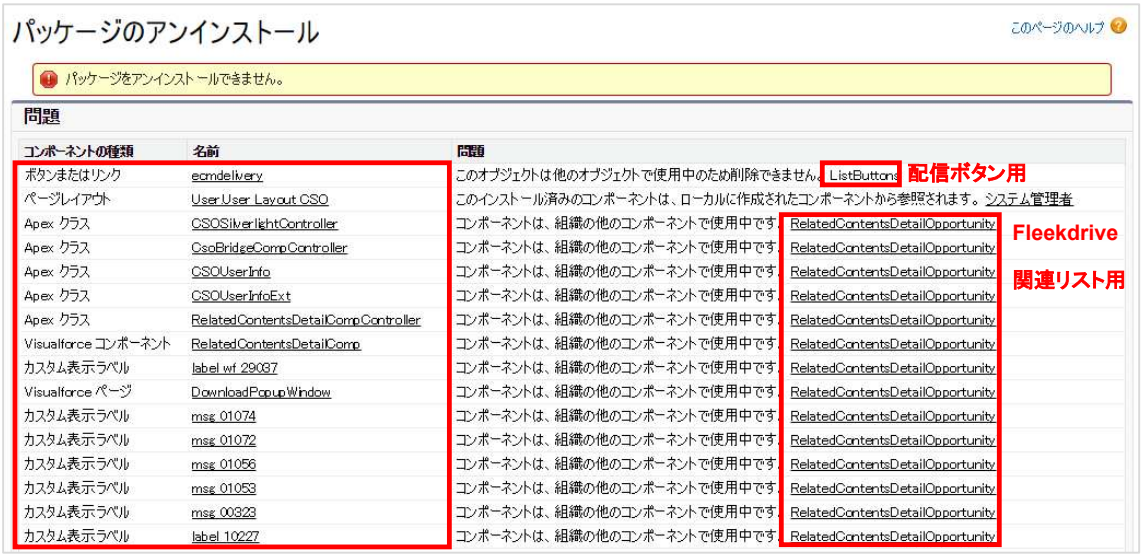
設定＞アプリケーション設定＞インストール済みパッケージを表示すると「Fleekdrive/Fleekform」が表示されます。

図 6-1



ここで「アンインストール」をクリックし、パッケージコンポーネントの一覧が表示された一番下の「アンインストール」ボタンをクリックしても、下記の様に設定済みの項目が表示されて、まだアンインストールの実行ができない状態です。

図 6-2



アンインストールするために、次の手順を実施してください。

6.2　ページレイアウト割り当てを変更

Fleekdrive 用のページレイアウトがユーザ情報使用されています。(3.1 で設定)

設定＞管理＞ユーザ＞プロファイルを選択し、プロファイルの一覧を表示します。

図 6-3



先程アンインストールできない理由として表示されたプロファイルの 1 つをクリックして参照します。

※不要なプロファイルであれば削除してもよいですが、「システム管理者」など、そのプロファイルを設定したユーザが存在する場合は削除できないので、下記の手順で行います。

図 6-4



プロファイルの詳細で、ページレイアウトの標準オブジェクトレイアウトにある「ユーザ」の「割り当ての参照」をクリックします。

図 6-5



「割り当ての編集」ボタンをクリックします。

「User Layout CSO」が設定されたシステム権限を選択し、使用するページレイアウトを「User Layout」に変更します。変更が完了したら保存ボタンをクリックします。

図 6-6



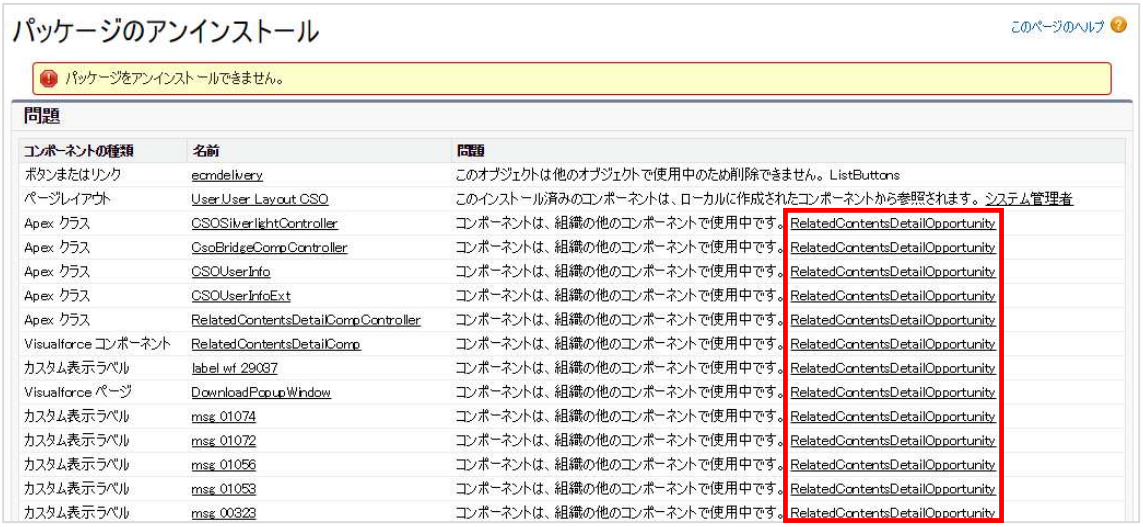
セールスメニューのページレイアウトにて、「RelatedContentsList」が CSO レイアウトに追加されている場合は削除する必要があります。

1. リードの場合、設定＞オブジェクトマネージャより、“リード”を検索し、選択します。
2. ページレイアウトを選択し、「ページレイアウトの割り当て」ボタンをクリックします。
3. 「割り当ての編集」ボタンをクリックします。
4. 「Lead ECM Layout」が設定されたプロファイルを選択し、「Lead Layout」に変更し、完了したら「保存」ボタンをクリックします。

6.3 Fleekdrive 関連リスト用 Visualforce ページを削除

6.1 でアンインストールを実行しようとした際に表示された Visualforce ページを削除します。

図 6-7



問題の欄に「コンポーネントは、組織の他のコンポーネントで使用中です。」の文言の後に記載されている Visualforce ページ名をクリックし、開きます。

図 6-8

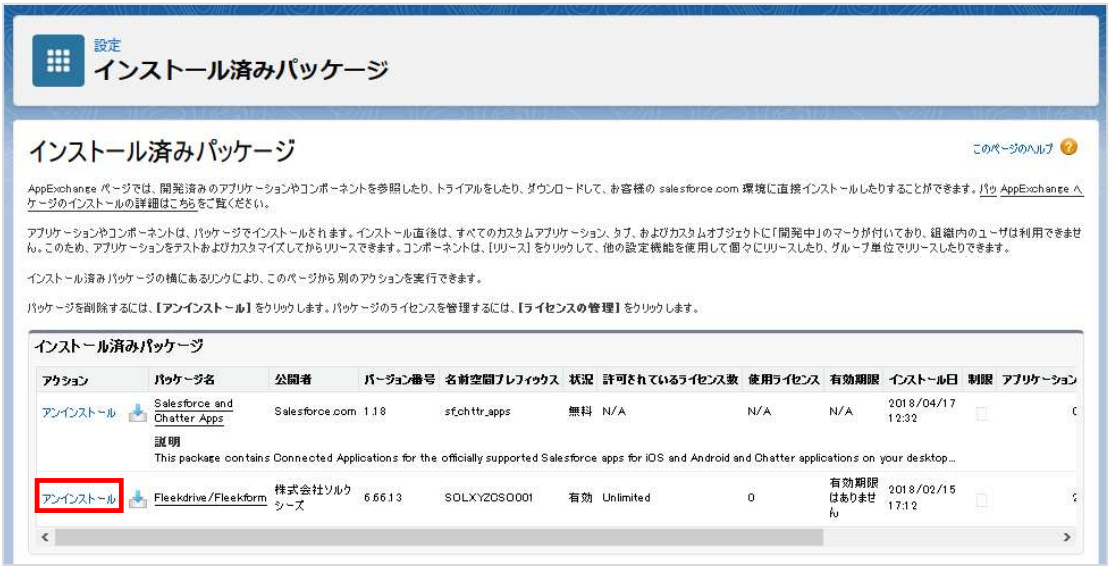


「削除」ボタンをクリックし、Visualforce ページを削除します。

6.4 アンインストールの実行

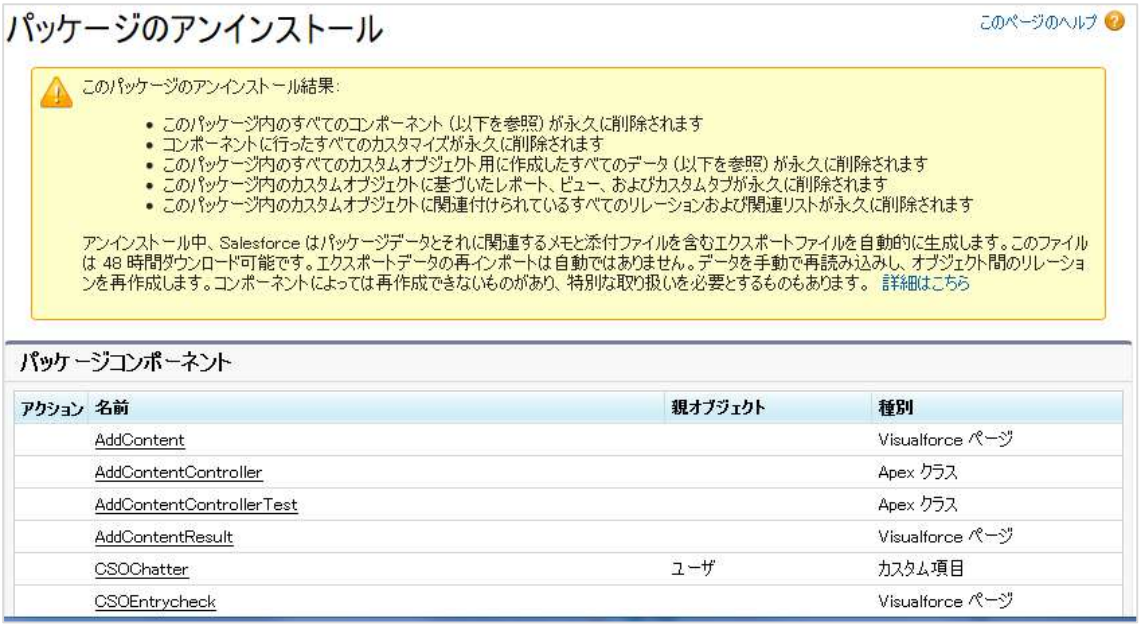
設定＞アプリケーション設定＞インストール済みパッケージを表示すると「Fleekdrive/Fleekform」が表示されます。

図 6-9



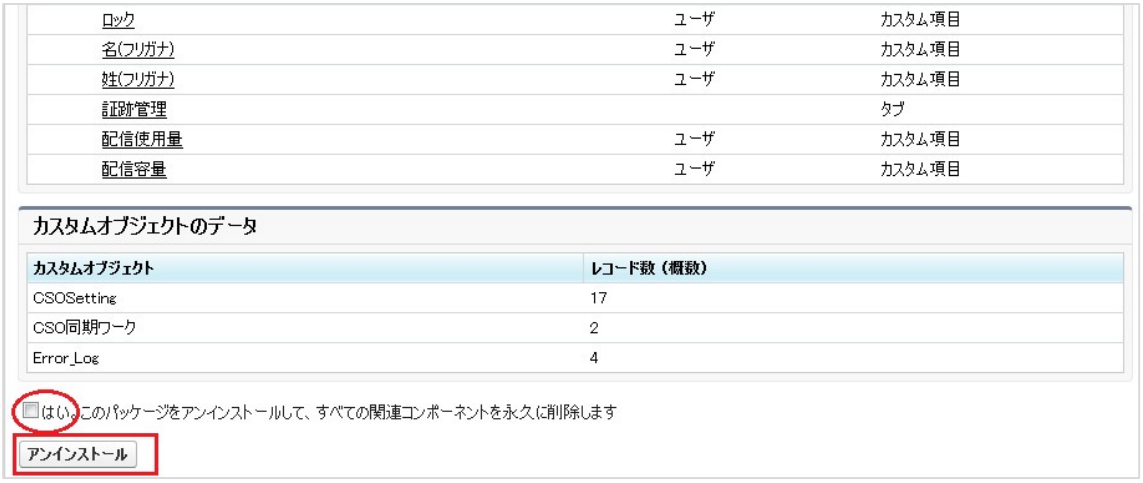
ここで「アンインストール」をクリックすると、注意事項と削除対象のパッケージコンポーネントの一覧が表示されます。

図 6-10



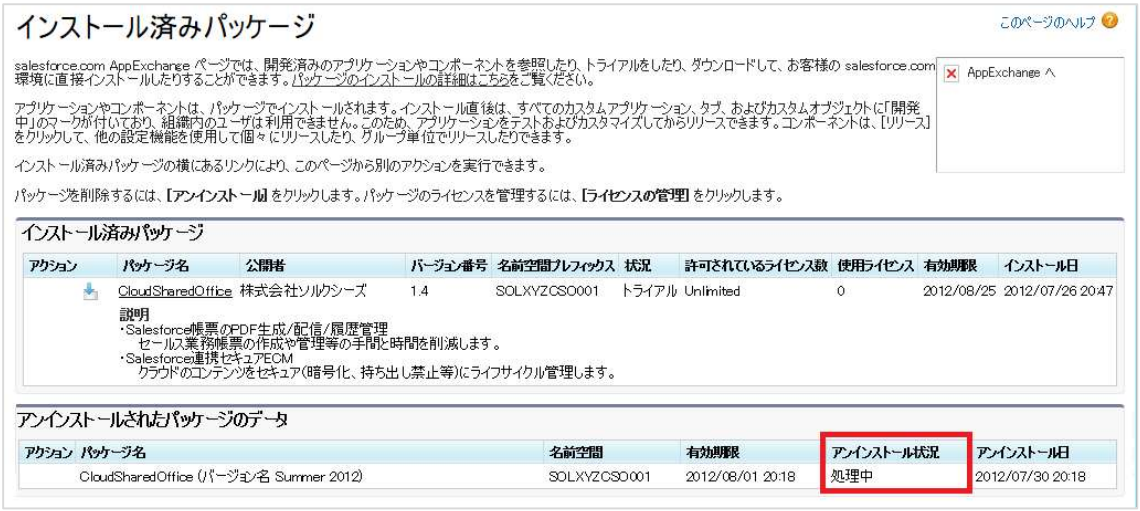
このページの一番下で、「はい」にチェックし、「アンインストール」ボタンをクリックしてください。

図 6-11



インストール済みパッケージの画面が表示され、アンインストールされたパッケージのデータに「処理中」と表示されます。

図 6-12



アンインストールが完了すると、実行したユーザにメールで通知されます。
タイトル：パッケージ「”Fleekdrive/Fleekform”」のアンインストールに成功しました

アンインストールされたデータを保存する必要がある場合、メールに記載された通り、48 時間以内にメールに書かれたリンクをまたは、インストール済みのパッケージ画面から、アンインストールしたパッケージに含まれるすべてのエクスポートデータを「ダウンロード」してください。

図 6-13



最後に、不要なアンインストール済みのパッケージデータを「削除」して完了です。

7　注意事項

7.1　Salesforce から Fleekdrive 機能を使用される場合

Salesforce の設定＞個人設定＞私の個人情報メニューでユーザ情報を変更した後、Fleekdrive のメニュータブを選択すると認証エラーが発生する場合、組織内のシステム管理者に連絡してください。
→Fleekdrive 設定タブ＞証跡＞証跡にエラーメッセージが出力されるので、内容に合わせて設定し直してください。

- Salesforce の設定＞設定＞セキュリティ＞セッションの設定で以下の項目にチェックを入れないで下さい。チェックを入れた場合、認証エラーとなり Fleekdrive が利用できません。
  ・「ログイン時の IP アドレスとセッションをロックする」
  ・「すべての要求でログイン IP アドレスの制限を適用」

- Salesforce の設定＞管理＞ユーザの管理＞プロファイルの設定で以下の項目にチェックを入れないで下さい。チェックを入れた場合、認証エラーとなり Fleekdrive が利用できません。
  ・「IP 制限要求」

7.2　Fleekdrive Salesforce 版と Fleekdrive の両方を使用される場合

Fleekdrive を Salesforce ライセンスで使用されている方は、Salesforce の画面で設定された内容が主と判断します。その為、オリジナルの Fleekdrive の画面から変更したユーザ情報などの設定値が Salesforce には反映されません。

7.2.1 ユーザ情報について

- Fleekdrive のカスタム・システム権限で、「ユーザ ID の編集権限」の様に、Salesforce では修正できる項目の編集権限がないシステム権限を作成しないでください。
  →Salesforce ではユーザ ID の変更が保存され、Fleekdrive ではシステム権限による権限エラーで更新できず、ユーザ ID が異なる状態が発生します。（Fleekdrive の証跡にエラーメッセージ表示）
- ユーザ ID が Salesforce と Fleekdrive で異なる状況が発生した場合、認証エラーが発生して Salesforce の Fleekdrive 機能が使用できなくなります。
  →この場合、Fleekdrive システム権限が「システム管理者」などユーザ ID の編集権限があるユーザで、Salesforce からユーザ情報を変更してください。正常に Fleekdrive に反映され、ユーザ ID が一致すれば再び使用可能になります。
- Salesforce でログインする場合のパスワードと、Fleekdrive でログインする場合のパスワードは別管理となります。
  →Fleekdrive からログインするには、システム管理者が Fleekdrive のユーザ管理画面からパスワードをリセットしてユーザに通知してください。

- Salesforce 使用中に、Fleekdrive でセキュリティトークンのリセットを行わないでください。
  パスワードではなくセキュリティトークンで認証制御をしています。Salesforce 側に保存された Fleekdrive セキュリティトークンと異なる場合、認証エラーが発生して Fleekdrive メニューが使用できなくなります。

7.2.2 メニュー画面の表示について

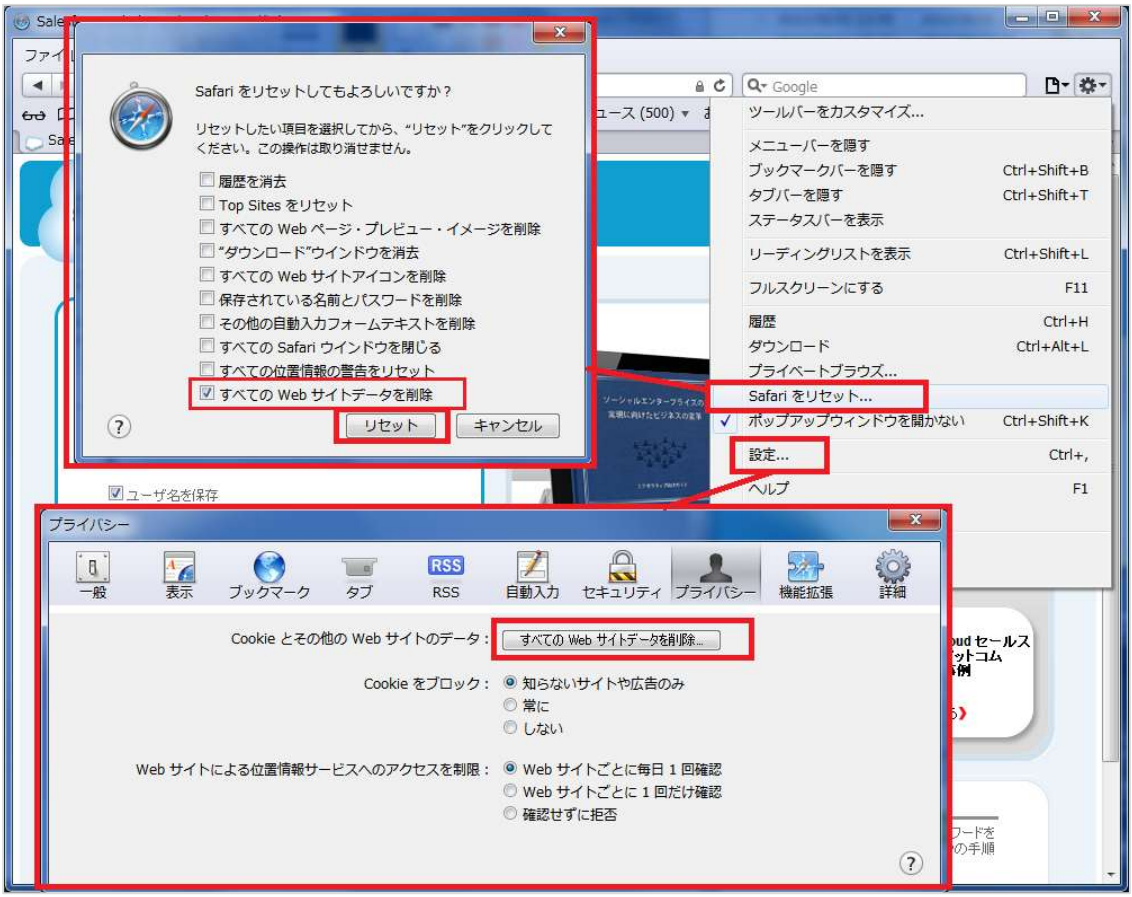
- 「Fleekdrive」「Fleekdrive ファイル配信」「Fleekdrive ワークフロー」「Fleekdrive 設定」「Fleekdrive ダッシュボード」メニュータブのアクセス権制御は Fleekdrive システム権限で設定します。Salesforce では、メニュータブの表示有無については Salesforce の機能で調整してください。
- Fleekdrive では、設定＞ユーザ管理＞システム権限管理で、カスタム・システム権限の「メニュー設定」で表示/非表示を設定可能です。
- 表示されているメニュータブに対するユーザの権限設定（標準／管理者など）は、Salesforce の Fleekdrive 設定＞権限管理＞Fleekdrive システム権限管理で調整可能です。

7.3 Safari を使用している場合

Safari を使用している場合、パッケージの再インストールによって、ファイル共有画面が再読み込みし続けるという現象が発生することがあります。
その場合は、Safari の設定メニューからブラウザのキャッシュと Cookie を削除してから使用してください。

設定メニューの「Safari をリセット」から「すべての Web サイトデータを削除」にチェックが入っていることを確認してリセット
または
設定メニューの「設定」からプライバシータブの「すべての Web サイトデータを削除」ボタンをクリック

図 7-1



7.4　カスタマイズについて

Fleekdrive の標準機能及び API で提供している機能、処理以外での呼び出しやカスタマイズなどは、アプリケーションでサポートされていません。

改訂履歴

改訂日	版数	改訂内容	改訂理由
2019/05/30	第 1 版	新規作成	新規作成
2021/03/10	第 2 版	修正	Salesforce での名称変更に伴い、コミュニティの表記をデジタルエクスペリエンスに変更（5.4.1）
2023/04/21	第 3 版	削除	以下の記述を削除 ・配信ボタンの配置
2024/08/15	第 4 版	追記	以下の項目を追記 ・5.2 信頼済ドメイン URL の編集
2024/12/16	第 5 版	修正	以下の項目を追記 ・2.インストール 図 2-4 の画像を修正
2025/11/28	第 6 版	追記・修正	2.インストール AppExchange よりインストールをする際の挙動の変更に伴い、本番環境・Sandbox 環境それぞれについて手順を追記、前後の調整

Fleekdrive Lightning Experience インストールガイド
2025 年 11 月 28 日 第 6 版

株式会社 Fleekdrive
http://app.fleekdrive.com

Copyright (C) 2025 Fleekdrive Co., Ltd. All Rights Reserved.